

和光市教育振興基本計画・中間評価シート
(意見・提言、今後の取り組み抜粋版)

基本施策 5:家庭や地域社会との連携・協働による教育の推進

基本施策 7:児童や青少年の居場所づくり

基本施策 8:生涯学習の振興

基本施策 9:歴史的文化資源の保存・活用と創造的な文化の振興

基本施策 10:スポーツ・レクリエーション活動の推進

和光市教育振興基本計画 中間評価シート

基本施策5

家庭や地域社会との連携・協働による教育の推進

各学校のPTAや保護者の会、学校応援団、コミュニティ・スクール等学校を支援する組織及び関係機関等との連携及び協働により、家庭や地域社会とともに歩む学校づくりを進めていくとともに、学校を核とし、地区社会福祉協議会など地域を支える組織と連携及び協働した地域学校協働活動の実現を目指します。

■社会教育委員の意見・提言

・指標になっているコミュニティスクールの理解度や関心度を上げる必要がある。様々な説明や取組の成果を保護者、教職員に伝える工夫を検討すべき。

・学校が地域と繋がっていく姿勢は大事だが、前提として教職員の負担軽減も考えたい。

・「ふれあい通信」などの広報媒体を見ると、様々な取り組みをしていることが分かるが情報発信が足りない。発信方法を検討する必要がある。

・地域学校協働活動は地域ごとのカラー（特色）が反映されてしかるべき活動であり、例えば同通信も地域ごとに通信の愛称を募集し、それぞれ名称を変えるのもよいのではないだろうか。また編集の一部を児童にも協力して書いてもらうなどしてもよいだろう。

・ディレクターやコーディネーターの負担に偏りがあり、今後、活動に参加する人材不足が懸念される。

・協働活動を推進するための、CSディレクターと地域コーディネーターの役割は重要である。ボランティアやリーダーを育成するためのプログラムを開発し、定期的な研修やワークショップを提供することで、人材の固定化を防げるのではないか。

・地域づくりの意味からも地域学校協働活動の拠点を公民館に設置したことは評価できる。

■今後の取組

このまま継続にむけて検討 改善して継続を検討 事業の大幅な見直しを検討

・「ふれあい通信」等の情報発信について改善検討を行う

・新入学生を対象とした説明会等で地域学校協働活動に関する案内を配布する等、保護者に活動を知ってもらうための施策を検討する。

・ボランティアやリーダーを育成するための定期的な研修やワークショップの開催を検討する

・引き続き公民館を拠点とした活動を継続する

基本施策7	児童や青少年の居場所づくり
児童が身近な地域で友だちと触れ合いながら安心して過ごすことができ、青少年が社会の責任ある一員として成長できるようにします	

■社会教育委員の意見・提言

- ・わこうっこクラブに指定管理者制度を導入し学童クラブとの連携が進んだことは評価できる。
- ・わこうっこクラブと学童クラブは行政側の担当部署が分かれていることや、指定管理として管理・運営を事業者へ委任する事で現れた課題や地域とのかかわり方への影響について社会教育の観点から見えていくことも必要ではないか。
- ・不登校児童のような学校に適應できない子供たちの居場所づくりの施策が必要。学童、公民館等に、こうした子ども達が学校の代わりに行ける場所を創り、支援センターでなくても対応できる施策があるとよい。
- ・わこうっこクラブの運営に、多様な事情がある保護者の意向や希望を継続的に収集し、可能な限り反映していくことが重要である。
- ・図書館、公民館、わびあなど子供たちが安心して過ごせる場所が増えているのは非常に良いことだと思う。
- ・長期休業中の公民館の自習室開放は素晴らしい施策だと思う。実現には課題があると思うが長期休業中に限らず常設できたら良いと思う。また、実施施設にコミュニティセンターや地域センターも考慮できないか
- ・自習室開放は評価できるが、子供の居場所は机に向かえ勉強に励む場所だけではないと思う。地域のボランティア団体やNPO法人と協力し公民館を活用した多様な居場所づくりが行われることに期待したい
- ・公民館ロビーを利用する中高生をよく見かける。中学校部活の地域移行を見据え、文化部活動を支えるために定期的な会議室等の開放を準備することも必要だと思う。

■今後の取組

- このまま継続にむけて検討
 改善して継続を検討
 事業の大幅な見直しを検討
- ・わこうっこクラブは引き続き指定管理者制度による学童クラブとの一体型運営を継続し、連携した事業運営をおこなっていく
 - ・居場所づくり事業について、不登校児童への対応や公民館、図書館以外の実施場所の拡充、長期休業日以外の実施可能性について検討する。

和光市教育振興基本計画 中間評価シート

基本施策8	生涯学習の振興
市民の多様なニーズに対応した学習機会を提供し、市民が自主的な学習活動を行い、学んだことを地域で生かせるようにします。	

■社会教育委員の意見・提言

- ・コミュニティスクールの一環として学校に生涯学習指導者を講師とする取組があると良い
- ・各講座の開催日や開催場所について、より幅広い市民が参加しやすいよう工夫が必要。
- ・公民館へのWi-Fiの全館導入は早急に進めるべき。
- ・施設の経年劣化が進んでいるため修繕や設備更新が必要。特に公民館は災害時の拠点となるため懸念している。
- ・自主サークルの学習者が将来指導者になれるような仕組みを醸成していくことが大切だと考える。近い将来、中学校の部活が地域移行する関係上、文化課外活動の一環として公民館を活動拠点とするならば指導者層のすそ野を広げていくことが必要。
- ・受講者の希望に沿うようなオーダーメイドの講座があると良い。
- ・単発の講座が多い。「毎月」「毎週」といった継続的な事業があると良い。
- ・公民館と市民や市民団体と連携したユニークな取り組みが見られる
- ・地元企業や人材、研究機関との連携を強化し、実践的な学習機会を提供を検討すべき
- ・身近な課題を解決できる実用的な体験、生活の中で役立つスキルを学べる体験型プログラムを検討されたい
- ・講座をオンラインで実施することで、より多くの市民がアクセスしやすくなり、地理的な制約を超えた講師と参加者の交流が可能になる。
- ・市民が主体となって実施する講座、ワークショップが少ない。学習成果の発表機会を増やす取り組みが必要。
- ・図書館では、読み聞かせボランティアの活躍等も見られた。ボランティア団体が活動する機会を設けるだけでなく、各団体のニーズに沿って、活動を支えることも図書館の機能に加えるなどすることで、さらなる活躍を後押しできるよう図書館のサポートにも期待したい。
- ・図書館の蔵書対応は適切に実施されている。また色々なイベントも数多く企画・実施され市民のニーズを捉えている。現状を継続されたい。
- ・図書館内での新刊・関連分野・著者などの特設コーナーは定期的には実施されているが、市民へのアピール度が薄い。館内ではポップアップポスター等で来館者に気づかせ興味を沸かせる工夫が必要

■今後の取組

- このまま継続にむけて検討
 改善して継続を検討
 事業の大幅な見直しを検討
- ・公民館へのWi-Fi導入等、施設の維持管理、設備更新を適切に実施していく。
 - ・各講座の開催日、開催場所を工夫し、誰もが参加しやすい講座となるよう検討
 - ・単発ではなく継続的な講座の開設を検討
 - ・市民が主体となる講座、ワークショップの充実を図る
 - ・図書館では利用者に興味を持たせる工夫が必要

和光市教育振興基本計画 中間評価シート

基本施策9	歴史的文化資源の保存・活用と創造的な文化の振興
<p>市民の貴重な財産である文化財や郷土の歴史を後世に伝えていくとともに、市民が郷土に愛着を持てるようにします。また、文化活動を行う市民の自主性が尊重され、創造的な文化活動を活性化します。</p>	

■社会教育委員の意見・提言

<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと民家園や公民館見学を小学校の授業に取り入れていることは非常に良いと思う。 ・午王山遺跡への子供たちの見学等の取り組みが必要だと思う。 ・市役所、公民館等に和光市で発掘した土器等を展示しているのは良いが、展示の仕方に工夫が足りない。定期的に展示物を入れ替える等市民が興味を示す展示をするべき。 ・文化財や市の歴史に関する情報をデジタルミュージアムを通じて広く発信するべき。市民の認知度が低いように思う。 ・多くの市民が「観る」「触れる」「使う」などの体験ができていないのではないかと。事業を継続しつつも、更なる創意工夫に期待したい。 ・午王山遺跡等の市内史跡に関して市民の認知度が年々上がってきていると思うが、現地までのアクセスの悪さ、周辺設備の未整備等により現地に赴くことが困難なのが実情だと思う。 ・伝統文化の継承にあたり、補助金交付や公民館使用など行政も支援に努めていることが、後継者育成が進んでいる実績にも現れていると考えられる。これらを踏まえると十分に評価できる。一方、高齢化が進む中で、重要であり喫緊の課題でもあるため映像保存等も含めた伝統文化の継承に向けてさらに一歩話し合いを重ねていただくとともに、必要なサポートが期待される。 ・本事業はあらゆる世代、多種多様な文化活動の支援であることから、市民まつり・公民館のまつり・サークル体験フェスタのみで良いのか疑問である。これまでの文化の継承はもちろんであるが、和光市は若い世代も多い特性も踏まえ、目まぐるしく変化していく社会のなかで、新たな文化を生み出す力や文化を発信していく力もあるだろう。触れる機会や発表の機会だけでなく、市民が新たな文化活動を「創造」していくことができるよう後押しする取り組みも検討できるのではないかと。

■今後の取組

<input type="checkbox"/> このまま継続にむけて検討 <input checked="" type="checkbox"/> 改善して継続を検討 <input type="checkbox"/> 事業の大幅な見直しを検討
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生のふるさと民家園訪問や公民館見学は継続する ・市役所、公民館での文化財の展示方法は改善を検討する ・午王山遺跡の周辺整備については継続していく ・デジタルミュージアムの発信方法について改善検討を行う

和光市教育振興基本計画 中間評価シート

基本施策10	スポーツ・レクリエーション活動の推進
市民が身近な場所でスポーツ・レクリエーションに親しみ、自主的に取り組めるようにします。	

■社会教育委員の意見・提言

- ・スポーツ施設の利用者数は目標を超え、市民のニーズに合致していると評価でき、今後も市民のニーズを把握しながら継続的な取り組みに期待したい。
- ・スポーツ施設の維持管理は限られた財政の中で難しい課題であるが、活動団体等へのヒアリングを通して市民の声も聞きながら取り組んでいただきたい。
- ・「わこうスポーツ祭り」の開催は、多くの方々の参加もあり、多様なスポーツの体験等もできる機会としても十分に評価できる。継続的な開催を期待したい。
- ・学校の部活動の地域移行という近い将来に向け、地域クラブの活動の中核となる人材が必要であり、文科省の承認を受けた社会体育指導員の計画的な養成・確保が喫緊の課題である。このため、社会体育指導員資格取得経費の助成を検討したらどうか。
- ・eスポーツやブレイキンなど、若い世代の取り組む新しい形のスポーツへの視点をどのように含めていくかも検討課題となる

■今後の取組

- このまま継続にむけて検討
 改善して継続を検討
 事業の大幅な見直しを検討
- ・スポーツ施設の維持管理は市民の声を聞きながら実施していく
 - ・「わこうスポーツ祭り」は今後の継続にむけて検討していく
 - ・部活動の地域移行にむけ指導員の育成・確保を検討していく